

リビングストーン（ザンビア南部）のスーパーマーケット

都市部には巨大なスーパーマーケットやショッピングモールがあり、食料や衣類、生活雑貨など、生活に必要なものはなんでも購入でき、日本と同じように利用できる。

ザンビアのお金・クワチャでも、アメリカ・ドルでも、クレジットカードでも買い物ができる。

棚に並ぶ商品は、ほとんどが南アフリカから輸入したものである。ザンビア産の商品はほとんど見当たらなかった。



SDGs

【 】

【 】

【 】

町中に散乱するゴミ

道路わきには多くのゴミが捨てられている。放牧されている家畜の死因となることもある。

下水道に関しては詳細は不明だが、現地の協力隊員によると、地中に埋めた大きな甕（かめ）状のものに汚水をため、いっぱいになったら別の甕に入れていくという方法をとっているところもある。

都市では水洗トイレが使える。農村地帯は土やレンガでつくられた小さな部屋の中に穴が掘ってある状態である。



SDGs

【 】

【 】

【 】

野焼き

リビングストーン（ザンビア南部）→ルサカ（首都）

各地で野焼きが見られる。

野焼きを行う理由は、現地の協力隊員によると、木を燃やして炭をつくるためではないか、ということだった。主食のトウモロコシの粉は自給自足できるが、現金が必要な時、そのおもな収入源として、燃料の炭をつくるというものだ。

燃え広がりを防止する工夫などは確認できなかった。平地のみでなく山を焼いている光景も見られた。

農村地帯には電気・水道・ガスはないところが多いが、スマートフォンを持っている人は案外多い。



SDGs

【 】

【 】

【 】

JICAの支援で設立された コンパウンド（スラム街）のヘルスセンター

コンパウンドとは都市に形成された一種のスラム街である。一つの集落の中に小学校・給水塔・ヘルスセンターなど生活に最低限必要なものがJICAの支援によってつくられている。人口の半分が15歳以上のザンビア。このヘルスセンターには医者がない。出産を控えた女性たちが行列をつくっている。中には15歳以下と思われる少女もいた。

付き添いとしての男性の姿は見当たらなかった。

このヘルスセンターでは1日に5人が出産する。出産後、母親は6時間休んだら出所する。ワクチンなどの接種も行う。使用済みのものと思われる注射針が地面に落ちていた。



SDGs

【 】

【 】

【 】

カッパーベルトから南アフリカへ運ばれる銅

ザンビアの主な輸出品は、銅である。ザンビアで採掘された銅は南アフリカへ輸出され、そこで加工・製品化され世界各地へと輸出される。

採掘は山をそのまま削る「露天掘り」の方法がとられている。採掘現場では身体症状に異常が見られる住人が確認されており、公害が疑われている。



SDGs

【 】

【 】

【 】

灌漑（かんがい）施設の整備

農業を、雨水に頼るザンビア。

雨が降れば作物は育つが、降らないとき、降りすぎたときは食料難になる。

この農村ではJICAの支援によって灌漑施設の整備が行われ、安定して水の供給ができる。主食以外の商品作物などの栽培もおこなわれている。

ザンビアは発電も水力に頼る。主な輸出品である銅の採掘も、水と電気に頼るが、発電も水力に頼るため、水の管理は国の死活問題である。



SDGs

【 】

【 】

【 】

カフェの農村地帯での食事づくり

主食「シマ」をつくっている風景である。トウモロコシの粉を少しずつ混ぜながら力いっぱい混ぜてつくる。

燃料は生木を使用し、コンロやかまどは、ない。

副菜は鶏肉を使った料理だったが、油を大量に用いて素揚げをしていた。

ザンビアでは油と塩が「豊かさ」「もてなし」の象徴とされているようなところもあり、料理全般において塩辛く、油っぽい料理が多い。主食の「シマ」の他に、付け合わせとしてフライドポテトが用いられることも多い。



SDGs

【 】

【 】

【 】

ナショナルサイエンスセンター 手作り、移動可能な理科の実験室

ナショナルサイエンスセンターは、国立の、理数系の教育を発展させるための研究所である。JICAの支援によって始まった。

この実験台は、理科室の設備がない学校でも、理科の実験ができるように工夫されたもので、この研究所ですべて手作りで行っている。

水道がなくても水が使えるように、ポンプで水をくみ上げる機能も付いている。サイエンスセンターでは、ほかにも試験管立てガスバーナーの三脚、数学の座標黒板なども手作りしている。ここでつくられたものはザンビア国内の小中学校に送られる。



SDGs

【 】

【 】

【 】

首都ルサカ内にある初等教育学校（中学3年生）

すべて英語で行われる数学の授業の後、中学3年生に将来の夢を聞くと、「医者」「学校の先生」「（土木や機械関係の）技術者」などと答える生徒が多かった。理由は「国の発展に必要な仕事だから」「困っている人を助きたい」など。この生徒は医者になりたいと語った後「（勉強のために）どうやったら日本に行ける？」と質問をしてきた。

農村地帯の学校には、道なき道の先にある学校もある。1クラス70人を超えるところもあり、教科書や筆記用具を持っている生徒は少ない。校舎がなく、椅子だけの学校もある。



SDGs

【 】

【 】

【 】